

「指先から少し血が流れ始めた」

中村ケンシ

登場人物

- ・川上美紀（支援学校教諭）
- ・田丸文水（支援学校講師）
- ・長嶺（児童施設「あすなる園」職員）

とある特別支援学校。児童施設「あすなる園」が隣接している。
この支援学校は施設で生活している肢体不自由児の通う学校である。

教室には、小学校の教室に当然置いてあるであろう児童机や児童椅子はない。閑散としている。あるのは教師用の作業机、パイプ椅子数脚。児童達は一人ずつ教員に伴われ、車椅子や移動用ベッドで教室にやってくるので児童机や児童椅子は必要ないのだ。壁面には、行事予定表、季節の壁面飾り等がさりげなく貼ってあってもよい。

学校は春季休業に入っている。
家に帰る児童は一部である。ほとんどの児童が「あすなる園」でじっと新学期を待っている。施設の児童を迎えに来る保護者はほとんどいないのが現状である。
「あすなる園」入園については、保護者に連れられてきた児童もいるし、こども家庭センターから送られてきた児童もいる。入園理由は、育児放棄、児童虐待、孤児など様々な理由が考えられるが、それぞれの児童の「個人情報」は「あすなる園」から漏れることはない。支援学校教員にもその「個人情報」を知らされることはない。

午前中。教室には二人の教員がいる。

川上は「あおむし」のぬいぐるみを作っている。

田丸、絵本を見ている。

田丸 「The Very Hungry Caterpillar」
川上 そうなるの？
田丸 はい
川上 ベリーハングリー
田丸 「はらぺこ」です
川上 キヤタピラー
田丸 「あおむし」ですね
川上 へえー
田丸 印象変わりますよね。日本語と英語と

川上 「キヤタピラー」だもんね
田丸 戦車。英語って、まず動き優先なんですね
川上 なるほど。アメリカ人は、あおむしの「モゾモゾ」に目を奪われた
田丸 迫りくる小さなブルドーザー
川上 アメリカ人は機能的なんだよ
田丸 機能的ですか
川上 色は気にしない。日本人はイメージ優先
田丸 イメージですか
川上 でもそれって、同じものを見ても同じものを見てないってことだよ
田丸 そうなりますね
川上 うん
田丸 ついていきますかね、私、「アメリカ」に
川上 駅前留学してたんでしょ
田丸 真面目でしたよ。だから日常会話はそれなりに
川上 文水ちゃんなら英語がしゃべれなくても大丈夫
田丸 どうしてですか
川上 文水ちゃんだから
田丸 なんですかそれ
川上 でも「あおむし」と言いながら「青」じゃないんだよね。ゲンミツに言うとな
田丸 ゲンミツじゃなくていいんじゃないですか
川上 テキトーでいいの？「緑」を「青」って呼ぶことに抵抗はないの？
田丸 あ「信号機」もそうですよね
川上 そうだわ
田丸 言ってますよね、普通に「青」って
川上 あ、言ってる
田丸 はい
川上 受け入れ先は決まったんだっけ
田丸 ボストンです。おかげさまで
川上 アメリカ全土の地図が頭に浮かばない
田丸 東の方ですね
川上 東ってどっちだ
田丸 晩ご飯が終わったらスペイン語しか話さない大家族みたいで
川上 いいの？英語の勉強しに行くんでしょ
田丸 そこでベビーシッターをさせてもらいながら
川上 ベビーシッターか
田丸 と言っても幼稚園児くらいの子らしいんですけど
川上 安心ね
田丸 どうしてですか？
川上 小さい子は万国共通でしょ。英語わかんなくても大丈夫
田丸 ダメですよ。英語の勉強をしに行くんですから

川上 あ、そうか
田丸 そうですよ
川上 まあまあ気負わずに
田丸 気負ってはないんですけど

川上は作業に戻る。
田丸は絵本を眺める。

田丸 きれいな色ですね
川上 エリックカール。定番
田丸 かわいいですね。あおむし君
川上 ほら、シオン君たち好きでしょ、虫
田丸 好きですね、掌にマルムシのせたら声出して喜んでましたね
川上 だから、みんなで虫になったり、こうやって(あおむしのぬいぐるみに手を入れて)、子供たちの顔をつついたり
田丸 素敵ですね
川上 新学期。「見る、聞く、感じる」の時間に
田丸 もう教材研究ですか
川上 休みの間にね
田丸 偉いっすね
川上 染みついているなあ。かなしいかな、教師の生活習慣

田丸は絵本を朗読する。

田丸 「にちようびのあさです ボン！と たまごからちっぽけなあおむしがうまれました
た あおむしはおなかがぺっこぺこ あおむしはたべるものをさがしはじめました」
川上 何？いきなり
田丸 向こうに行ったらおなかがすくと思うんです
川上 おなかがすく？
田丸 今のうち日本語を食べておこうと思って
川上 ああ、お食べ、お食べ
田丸 (気を取り直して)「げつようび、りんごをひとつみつけてたべました かようび、なしをふたつたべました すいようび、すももをみつつたべました もくようび、いちごをよつつたべました」明らかに食べ過ぎてますね
川上 「あおむし」は食べるのが仕事なのよ
田丸 そうなんですか
川上 あ、成長するのが仕事かな
田丸 蝶になりますもんね
川上 蝶にならないとお話が終わらない
田丸 子供たち、何してますかね

川上 え
田丸 今です。春休み。うちのクラスの
川上 5人とも園にいるかな
田丸 家に帰らないんですよね。夏休みも冬休みも
川上 帰れないからね
田丸 それ知りませんでした。ここで働くまで
川上 そうい学校だから
田丸 そうい学校ですか
川上 親が迎えに来る子供って少ないから
田丸 迎えに来ない保護者って「保護者」って言っいいいんですかね
川上 いろいろ事情がある
田丸 私、テレビでしか知りませんでした。障がい者の人、子供
川上 うん
田丸 頑張ってる障がい者とか、楽器やったり、山に登ったり、みんなに応援されてまし
た。友達や家族や芸能人に。私もテレビの前で応援してましたけど
川上 文水ちゃん
田丸 はい
川上 ノンちゃんに会った？
田丸 まだです
川上 お別れしないと
田丸 そのつもりです
川上 うん
田丸 わかりますかね、ノンちゃん、新学期から私がいなくなるってこと
川上 わかるよ
田丸 そうですか
川上 全然、違うもん、文水ちゃんと一緒のときのノンちゃん
田丸 そうですかね
川上 文水ちゃんと一緒のときは満面の笑み。目をキョロキョロ、足をバタバタ、いつも
車椅子から落ちそうになっ
田丸 あとで長嶺さんが呼びに来てくれることになってるんです
川上 そうなの
田丸 今日、定期検診が入ってて、それが終わったらって、で、顔見てきます
川上 そう
田丸 あの
川上 何
田丸 長嶺さんは古いんですか？「あすなる園」
川上 そうねえ
田丸 けっこうベテランですよ
川上 私が転勤してきたときにはもういたかな
田丸 先生が来たときって

川上 5年前

田丸 え、まだ5年ですか

川上 何何

田丸 だって小学部の重役みたいな感じじゃないですか
川上 やめてよ

田丸 川上先生が中心になって低学年を回してるじゃないですか
川上 転勤が多いからねー、ご多分にもれずこの学校も。10年選手はいないんじゃない

かな

田丸 そうなんですよね

川上 初出勤のときに「あすなる園」を案内してくれたのが、長嶺さん

田丸 あ、私もです。同じです

川上 あの人、その頃から、園と学校の連絡担当かな

田丸 私、びっくりしました

川上 何

田丸 「あすなる園」

川上 どうして？

田丸 もっとなんていうんですか、大きな積木とかおもちゃの滑り台とかがあつて

川上 うん

田丸 壁に子供の書いた絵が貼つてあつて、可愛い人形とかままごとセットとか置いてあつて

川上 友達と遊べる子はいないから

田丸 そうですけど

川上 友達同士お話できないし

田丸 殺風景ですよ

川上 「あすなる園」は基本的に病院だからね

田丸 柵にはまだ抵抗があります

川上 柵

田丸 ベッドの柵です。一人一人のベッドに背の高い柵がついてて

川上 うん

田丸 あれ、檻ですよ

川上 え

田丸 動物園かと思いましたが

川上 動物園か

田丸 はい

川上 慣れたのかな、私は

川上、作っている「あおむし」を見つめる。

田丸 あの

川上 何

田丸 すみません

川上 え

田丸 言い過ぎ・・です

川上 「あすなる園」は子供一人一人に職員さんが付くことができないから

田丸 人数のせいですか

川上 子供一人一人を四六時中見ていることができない。多動の子もいる。園をすぐに飛び出すような子もいる。歩くとバランスを崩す子もいる。頭をぶついたり、切り傷で血がとまらなかつたり、少しの怪我でも命にかかわる

田丸 職員さんの人数はなんとかならないんですかね。どこに税金使ってるんですかね

川上 そう思うときもある

田丸 だからって柵で囲うんですか

川上 前に職員さんに言われたことがある

田丸 なんです

川上 私たちは「命」を守ってるって

田丸 柵に閉じ込めてですか

やや間。

田丸 私、初めてノンちゃんと対面したとき、教頭先生から「この子が担当の子だよ」って言われて、そのとき、ノンちゃん、柵の中で自分をかきむしってました。腕が傷だらけで、血だらけで、それで、私を見つけると、柵にしがみついて揺らしたんです

川上 「自由」って何だろうね

田丸 「自由」ですか

川上 柵をはずして、子供たちが「自由」になる。でも自分の気持ちがわからない。自分の行きたいところがわからない

田丸 行きたいところはあるんじゃないですか

川上 病院の中に？

田丸 わからないですけど、でも、外はみんな好きじゃないですか。散歩は大好きです。

太陽が当たって、みんないい顔してます

川上 一人で外に行くの？一人は無理だよ。

田丸 無理ですけど

川上 半分以上の子供は自力歩行は不可能、まったく動けない子供もいる

田丸 川上先生はいいんですか？子供たちを柵の中に閉じ込めて

川上 そうね

田丸 どうして来ないんですか？お父さんやお母さん

川上 いろんな理由がある

田丸 理由ですか

川上 「子供家庭センター」から送られて来た子供は親に居場所を言っってはならない場合もある

田丸 知ってます

川上 あの子たちは一緒に暮らす家族がないの
田丸 そうですけど
川上 私たちも24時間見守ることはできない
田丸 仕方がないってあきらめたくないんですけど
川上 文水ちゃん
田丸 はい
川化 私はね
田丸 はい
川上 柵はいらない
田丸 え
川上 柵はいらないと思ってる
田丸 はい
川上 うん
田丸 でも怪我とかって
川上 それでも

田丸、絵本を眺める。

田丸 「命を守る」ってなんですか
川上 うん
田丸 じゃあ学校は何をするところなんですかね
川上 え
田丸 私はノンちゃんに、この1年間、何ができたんですかね
川上 私たちが出来ることはね
田丸 はい
川上 やっぱ「教育」なんだよ
田丸 「教育」ってなんですか
川上 ……
田丸 ノンちゃん、字が読めないじゃないですか。数がわからないじゃないですか。算数も国語も無理です。ノンちゃんがこの1年間で成長したところって何かありますか？コトバをひとつ覚えたとか、一人で服が着られるようになったとか、いやな時はいやって意思表示できるようになったとか、トイレとか。全然、変わってないです。なんにもできません。あの、私のせいです。私の力が…
川上 園と学校をつなぐ渡り廊下があるでしょ
田丸 はい
川上 朝、園の職員さんから子供たちを受け取る場所
田丸 あります
川上 あの子たちにとって、渡り廊下の奥の園の扉が、おおげさかもしれないけど、外の世界の入り口なのよ
田丸 外の世界

川上 みんなニコニコしてるでしょ、朝の子供たち、みんな

田丸 それはすごく嬉しいです

川上 ノンちゃんと田丸先生が、セイジ君と吉田先生が、ミスズちゃんと和久井先生が、モトカちゃんと山崎先生が、シオン君と私が、出会うんだよ、毎朝、そこで。それから、一緒に歌を歌ったり、お遊戯したり、小麦粉粘土を触ったり、シャボン玉したり、それで、また渡り廊下の向こうに帰っていく。おこがましく聞こえるかもしれないけど、文水ちゃんが、私が、あの子たちの外の世界なんだよ

田丸 え

川上 私なんかでいいのかと思う。でも私しかないと思ったり。その責任で壊れそうになる

田丸 はい

川上 ノンちゃんやシオン君が、これから字を覚えて一人で本を読むことができるようになったり、友達や先生とお話ができるようになったり、目に見えて成長することなんてほとんどないんだよ。文水ちゃんの言ったように。それが障がいなんだけど

田丸 はい

川上 大きな発作があつて障がいが重くなるってことはあつても

田丸 はい

川上 そして、成長を願う親がないの。ほとんどの子供達が

田丸 そうですね

川上 「教育」って生きるすべを身につけること、生きる喜びを見つけること、生きる意味を見つけること、いろいろ言うことはできるんだけど

田丸 はい

川上 私はここに来てわからなくなった

田丸 え

川上 ごめんね。明確に答えられなくて

田丸は川上を見つめている。

川上 でもそのわからなさを抱えようとは思ってるんだけど

田丸 「わからなさ」ですか？

川上 考え続けるってこと。それしかできないけど。今は

田丸 わかります、私なりに、いや、やっぱりわからないです

川上 私が、問われてる

田丸 え

川上 文水ちゃんはノンちゃんが好きでしょ

田丸 大好きです

川上 それは確実にノンちゃんに伝わってる

田丸 本当にそうですかね

川上 それは本当、絶対

田丸 はあ

川上 「蝶になる」って
田丸 え
川上 なんだろうね

やや間。

田丸 川上先生

川上 何

田丸 私、逃げるんですかね

川上 ・ ・ ・

田丸 私、逃げるんですよね。教頭先生に来年度の講師の登録を強く勧められたんですけど

川上 今しかないと思ったんですよ

田丸 え

川上 世界を見ておいで

田丸 世界ですか

川上 きっと戻ってくるから文水ちゃんは

田丸、絵本を手にとる。

田丸 初めから葉っぱを食べるべきです

川上 え

田丸 このお話、不思議です。「いろんなものを食べてお腹を壊して泣く」っていうくんだり
はいるんですかね

田丸は絵本を読む。

田丸 「どようび、あおむしのたべたものはなんでしょう。チョコレートケーキとアイス
クリームとピクルスとチーズとサラミと。ぺろぺろキャンディーとさくらんぼパイとソー
セージとカップケーキと、それからすいかですって！ そのばん おなかをこわしてな
きました」

教室に長嶺が入ってくる。

看護師服を着ている。看護師服は白でも薄緑でもよい。活動しやすいように機能的なデザインをしている。

長嶺 えーっと

田丸 あ、長嶺さん

長嶺 診察、終わったから

田丸 ありがとうございます

田丸、行こうとする。

長嶺 あ、田丸先生

田丸 (立ち止まって) はい

長嶺 ノンちゃん、そのまま寝てしまつて

田丸 え、そうなんですか

長嶺 診察の途中でフネを漕ぎだして

田丸 フネですか？

長嶺 あんまり昼寝する子じゃないんだけどね

川上 疲れたんですかね

長嶺 (川上に) あと1時間くらいで起きると思うんですけど

川上 (田丸に) どうする？後にする？会うの

田丸 そう・・・ですね

川上 今日はこの後、予定はないんですか？ノンちゃん

長嶺 ずっとベッドに。春休みですから

田丸、少し考えて。

田丸 あの、顔だけ、見てきていいですか

長嶺 え

田丸 起こしませんから。そつと行きますから

長嶺 いいよ、起こしても

田丸 いえいえダメですよ

長嶺 退屈してるから、刺激があった方がいいし

田丸 いやでも

長嶺 ああ、そのまま部屋に行つても大丈夫だから

田丸 ありがとうございます。(川上に) やっぱり行つてきます

川上 行つてらっしゃい

田丸、行こうとするが、また立ち止まり。

田丸 長嶺さん

長嶺 はい

田丸 私、今年度で終わりで

長嶺 聞いてます

田丸 あの、1年間、ありがとうございました。いろいろ至らない所があったと思うんですけど

長嶺 留学

田丸 はい

長嶺 英語の勉強

田丸 はい

長嶺 偉いね。頑張ってるね

田丸 あの、私、ノンちゃんのこと、大好きです

長嶺 ノンちゃんも先生のこと、好きだったんじゃないかな

田丸 長嶺さんは来年度もノンちゃんの担当なんですよ

長嶺 どうか。大きな人事異動がなければ

田丸 私が言うのは変なんですけど、あの、おこがましいこと言うみたいなんですけど、

あの、ノンちゃんのこと、あの、よろしくお願いします(と、頭を下げる)

長嶺 了解です

田丸、顔をあげ、出て行く。

やや間。

長嶺 残念ですね

川上 なんですか

長嶺 最近の若手の中では頑張る先生だなあと思っていましたから

川上 頑張ってますよ、彼女、いつでも

長嶺 知ってます

川上 ええ

長嶺 リタイアですか

川上 え

長嶺 イマドキの若者にはキツイでしょ。大変ですよ。毎日、毎日、あの子たちと付き合い
うわけですから

川上 田丸先生は違いますから

長嶺 そうですかね

川上 流さない子だから。ちゃんといろんなことを受け止められる先生だから

長嶺 だから余計に疲れたんじゃないんですか

川上 なんですか

長嶺 川上先生は止められなかったんですか

川上 今日は踏み込んできますね

長嶺 すいません

川上 体調悪いんですか、ノンちゃん

長嶺 そうでもないんですけど

川上 そうですか

長嶺、机上のぬいぐるみを見て。

長嶺 蛇ですか？ツチノコ？

川上 「あおむし」です

長嶺 あおむし
川上 知りませんか？有名な絵本なんですけど

長嶺、絵本を手に取り。

川上 ツチノコって古いですよ

長嶺 (表紙を読む)「はらぺこあおむし」

川上 ええ

長嶺 (ぬいぐるみを見て) 触っていいですか

川上 どうぞ

長嶺、「あおむし」を手取る。

長嶺 なるほど、ここから手を

長嶺、ぬいぐるみに手を入れる。

長嶺 タオル地ですね

川上 子供たちの感覚刺激の訓練にもなりますから

長嶺 確かに

長嶺、「あおむし」の動きを試してみる。

川上 いいんですか

長嶺 え

川上 園の方は

長嶺、「あおむし」を机上に戻す。

長嶺 川上先生

川上 はい

長嶺 今、お時間よろしいですか

川上 大丈夫ですよ

長嶺 先生方への食事指導の研修のことなんですけど

川上 ええ

長嶺 来年度から、学校に「園」の職員の派遣ができなくなりました

川上 え

長嶺 昨日の会議で決まりました

川上 そうなんですか

長嶺 はい

川上 あの、もしよろしければ、理由を教えてくださいませんか
長嶺 理由ですか

川上 失礼ですけど、職員さんの数の問題でしょうか
長嶺 数ですか

川上 申し訳ないとも思っていました。普段のお仕事以外にお時間をさいて学校に、私たちのために来ていただいていたわけですから

長嶺 いえいえ

川上 三学期から取り組みが始まって、本当に勉強になりました

長嶺 いやそう言っていただけ

川上 その時間は、私たち教師にとっても有意義な時間でした。軽食でしたけど、子供たちと一緒に食事をしながら、笑いあったり、やりとりがあったり

長嶺 はい

川上 園の職員の皆さんには感謝しています。重度障がいの子供たちにもどうやって安全に、効率よく食べさせたら良いのか、摂食の際の専門性を学ばせていただくとても貴重な機会だったと思います

長嶺 ありがとうございます

川上 でも、取り組みは始まったばかりです

長嶺 はい

川上 継続していただけないでしょうか

長嶺 え

川上 お願いします

長嶺 継続ですか

川上 はい

長嶺 この学校は給食がない珍しい学校ですよ

川上 県内でうちだけです

長嶺 子供たちは学校で給食を食べないで、お昼の時間に園に帰ってきます

川上 そうですけど

長嶺 そこで我々が食べさせるわけですけども

川上 はい

長嶺 なぜですか

川上 え

長嶺 どうして学校に給食がないんですか

川上 それは

長嶺 それだけ、ここの子供たちの障がいが重いということなんです

川上 はい

長嶺 それぞれの子供の障がいによって、与える食事の栄養バランスも調理方法も異なります。ペースト状のものしか食べられない子供もいます

川上 はい

長嶺 ですから、それでいいのではないかということですか

川上 それでいい？

長嶺 分業です

川上 分業？

長嶺 はい

川上 もう少し詳しく聞かせていただけますか

長嶺 園としては「生活」と「教育」を分けたいということです

川上 分ける？

長嶺 学校は「教育」をしてもらえばいいんです。園は子供たちの生命維持が仕事です

川上 「食育」という言葉がありますよね

長嶺 ありますね

川上 健全な食生活の実現、健康の確保、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習のことです

長嶺 当てはまらないでしょう。この子供たちには

川上 当てはまります

長嶺 どこがですか

川上 一緒に食事をするのでやりとりが生まれます。あの子たちなりのコミュニケーションを引き出せます。人と関わる学習です。人と関わることは楽しいことなんです。その楽しさを子供たちに伝えることは、ひとつの、「教育」です

長嶺 正直に言いますね

川上 はい

長嶺 私たちには時間がないんです。人も足りません

川上 わかりますよ、それは

長嶺 何がわかるんですか

川上 私も正直に言わせていただいていますか

長嶺 いいですよ

川上 長嶺さん

長嶺 はい

川上 私、見てられないんです

長嶺 なにがですか

川上 私、今から失礼なこと言います。先に謝ります。申し訳ありません。園での食事の様子を何度も見学させていただきました。職員さんたち、とても熱心です。子供たちに愛情もあると思います。人員が圧倒的に足りないことは承知しています

長嶺 はい

川上 一人の職員さんが3人も4人もの子供たちの食事の世話をしていました。とても大変そうでした。あつちに走り、こつちに走り、仕方がないと思います。でも、でもですね

長嶺 餌をやってるみたいに見えましたか

川上 え

長嶺 おっしゃる通り、人が足りません。我々は専門の栄養士が計算し調理した食物を数人の子供の口に押し入れていく。ただそれだけです。人も時間もありません

川上 子供たちが

長嶺 なんですか

川上 かわいそうです

長嶺 川上先生

川上 はい

長嶺 では、人を増やしていただけですか

川上 ・ ・ ・

長嶺 子供たちに餌を与えるような、そんなことをしなくてもいいくらいに、余裕のある
人員を配置していただけますか、そんなことができますか

川上 いいえ

長嶺 まだあります

川上 なんですか

長嶺 他の先生方はどう考えてますか

川上 他の先生ですか

長嶺 今年、園の食事の見学に来られた先生は、先生と田丸先生だけじゃないですか。他
の先生は何をされてるんですか

川上 ・ ・ ・

長嶺 この学校は給食指導がないので先生方の転勤先として人気があるってきいたことも
あります

川上 それは

長嶺 事実、食事指導をしなくていいので安心してらっしゃる先生もいるんじゃないです
か。大変ですから。なかなか食べてくれませんか。吐しゃ物がかかることも日常茶飯
事です。良かったんじゃないですか。食事を園に任せて

川上 私はそうは思っていません

長嶺 川上先生がそうでないのはわかってます。僕が言いたいのはずね、先生一人じゃ
何にも変わらないってことですよ

川上 変わります

長嶺 変わりません。来年度から、この学校に給食の時間を作りますか？そんなことが実
現できますか？人員はどうするんです？専門性はどうするんです？先生と同じように重
度障がいの子供たちに食育が可能だと考えている先生方がいったい何人いるんですか？

川上 ですから、すこしずつ変えるためにも、研修をお願いしてるんです

長嶺 川上先生、理想と現実は大きく異なります

川上 取り組みを一步步積み上げていかないと始まらないと私は思っています

長嶺 このままでは「生活」も「学習」も中途半端になります

川上 長嶺さんも同じ意見ですか

長嶺 なんですか

川上 今まで話したのは全部私の意見です。長嶺さんのおっしゃるように個人的な意見の
域を出ません。でも、そこから始まると思ってます。個人から拡がっていくと私は信じ
てます。長嶺さん自身のご意見を聞かせてください

長嶺 僕ですか

川上 はい

長嶺 僕自身の意見はありません

川上 ないんですか

長嶺 はい

川上 見損ないました

長嶺 先生のおっしゃる通り、食事は動物に餌を与えているようです。今は春休みです。ほとんどの子供たちに行く当てがありません。学校がお休みですから。ですからずっとベッドの中で一日を過ごす子供がいます。少し動ける子供は廊下を徘徊しています。廊下に出て一日中体を横たえています。僕は相手にしません。相手にできません。一人の子供を相手にしたら子供たちが群がってきます。だから無視します。仕事ができせんから。根本的に人が足りないんです

川上 はい

長嶺 休みの日、子供たちは病院のどこに集まっていると思いますか？あの、渡り廊下の、学校に通じているドアの前ですよ。子供たちはね、学校が好きなんです、学校に毎日毎日行きたいんですよ

川上 はい

長嶺 どうすればいいんですかね

川上

長嶺 園が、動物園のようだと言われていることは知っています。何を言われてもかまいません。園は子供たちの生命維持が使命です

川上

長嶺 ですから、学校に給食がないことはそうなんです。納得しています。でも、どうして春休みがあるんですか、夏休みが、冬休みがあるんですか、普通の小学校と同じように、他の支援学校と同じようにどうして休みがあるんですか。他の学校に通う子供達は家族との時間を大事にするために、友達と関わる時間を大切にするために長期休暇があるんですよね。この子供たちは違うじゃないですか。帰る家がない、友達と関わる力がない。それぞれ、特別な事情を背負ってるじゃないですか

川上

長嶺 川上先生に言ってもしかたありませんけど

川上 私は

長嶺 また理想ですか、届かない理想を口にするのは罪なことだと僕は思いますそれとも理想を語ることは気持ちいいことなんですかね
川上 そんなことはありません

やや間。

長嶺 すみません、言い過ぎました

やや間。

長嶺 毎朝、渡り廊下で、川上先生や田丸先生に子供たちを受け渡すとき、子供達から高

揚を感じます

川上 高揚ですか

長嶺 子供たちの期待感です。表出はありませんけど、僕にはわかります

川上 はい

長嶺 田丸先生は残念です。ノンちゃん、田丸先生に会うと声をあげて笑います。いつもです

川上 彼女は戻ってきません

長嶺 園ではね、毎年、新人が入ってきます。研修して、仕事を覚えます。担当が決めます。4、5名の子供の担当になります。それで彼らは二つのパターンに分かれます

川上 二つのパターンですか

長嶺 一つは仕事をこなすんです。目の前の仕事に没頭するんです。つまり感じることをやめるんです。思考を止めるんです。矛盾を感じても自分の力ではどうしようもないです。子供が廊下に転がっていても危険がなければ放っておきます。黙々と食事を与え、黙々と入浴させて、黙々と着替えさせて。ただなにも考えずに目の前の仕事をこなしていきます。彼らを責めることはできません。この仕事は考え出すとやっつけられませんか。いちいち考えると身体を壊します。もう一つは、子供たちを機械的に扱うことに耐えられなくなると、仕事を辞めていきます

川上 そうですか

長嶺 それが今の園の現状です

川上 長嶺さんは

長嶺 え

川上 長嶺さんはどちらですか

長嶺 僕はこの仕事、長いですから

川上 ・・・そうですか

川上、あおむしのぬいぐるみを手取る。

長嶺 ノンちゃん

川上 え

長嶺 きつと起きると思います

川上 はい

長嶺 本当は疲れてるんですけど

やや間。

長嶺 昨日

川上 はい

長嶺 ノンちゃんの家族が面会に来られたんですよ

川上 え

長嶺 お父さんとお兄ちゃんが来られて、お兄ちゃん、6年生です

川上 いいんですか
長嶺 なんですか

川上 個人情報報は学校には漏らさないって決まりが

長嶺 いいんですよ

川上 ・ ・ ・

長嶺 実は、半年に一度、面会に来られるんです

川上 そうだったんですか

長嶺 来られるのはいつも夕方です。お父さん、いつもノンちゃんを抱っこして、1時間くらいです。じつと、抱っこしながら、時々、小さな声でノンちゃんに謝ってます、時々、泣いています。1時間です。その間、6年生のお兄ちゃん、その光景を見つめながら、待ってるんです

川上 それで

長嶺 それだけです

川上 あの、お母さんは

長嶺 お母さんは来られたことはありません

川上 そうですか

長嶺 川上先生

川上 はい

長嶺 ノンちゃん、生まれたときは障がいはなかったんですよ

川上 え

長嶺 ごく普通の、健やかな、お子さんだったそうです

川上 ・ ・ ・

長嶺 その後、ノンちゃんがどんな虐待を受けたのか想像できますか？

川上 ・ ・ ・

長嶺 川上先生、次、どうしますか

川上 え

長嶺 我々はそれを知って、次、どうしますか

川上 ・ ・ ・

長嶺 過去を変えることができますか？家族に、子供に、何ができますか？ノンちゃんのお母さんがどうして来ないのか、今、何をしているのか？それも言います。お母さん、今、資格を取る勉強をしています。作業療法士の資格です。全ての重度障がい者のためになる仕事をしたいです。本末転倒です。そのお母さんの努力はわが子に向かうべきではないんですか？お母さんはお母さんなりに罪を償っているのだと僕は思います。でも、努力の方向が間違ってる。それ、言えますか？肉親ではない、家族ではない、他人の、我々に、お母さんを批判できますか？私は後輩に徹するように指導しています。感じるな、考えるな。感情を動かすな。感情を動かした新人はやめていきます。当たり前です。その家族の、その子供の背負った重さに耐えきれませんから。誰も責めることはできません

川上 では、誰が背負うんですか

長嶺 え

川上 その家族を、子供を、です
長嶺 誰も、何もできません

川上 そうですか

長嶺 この話

川上 はい

長嶺 特別なことではありません

川上 はい

長嶺 園の子供たちは多かれ少なかれ似たような家庭環境です

川上 ノンちゃんは

長嶺 はい

川上 あの子たちは人間です

長嶺 はい

川上 お母さんも

長嶺 はい

川上 お父さんも、その、お兄ちゃんも、私たちも

長嶺 人間に何ができるんですか

川上 何もできませんか

やや間。

長嶺 僕は守秘義務を破りましたね

川上 はい・・・破りました

長嶺 川上先生には、あなたには伝えておきたかったんです

川上 ・・・・

長嶺 ノンちゃんは、きつというんな感情が残ってると思うんです。心の奥に。そして、
川上 今も、いろんなことを感じて、思っ、生きています。外には出せませんが

川上 はい

長嶺 僕はずるいですね。あなたに託すみたく。辞める間際に

川上 え

長嶺 ・・・・

川上 長嶺さん、辞めるんですか？

長嶺 会議の結果をお伝えしてから、それから、辞職の挨拶をするだけのつもりで来たんです
川上 どうしてですか

長嶺 限界ですから

川上 限界？

長嶺 これまでありがとうございます。置き土産にはありませんが、食事指導の研修の
件、会議で再提案します。川上先生の意向を園に伝えます

川上 ・・・・

長嶺 今後、園と学校がもう少し協力できればいいと思っております。子供たちのためにも。

無責任ですね。僕がこんなことを言うのは

川上 無責任です

長嶺 そうですね

川上 どうして辞めるんですか

長嶺 今、話した通りです

川上 じゃあ長嶺さんはどうして今まで仕事を続けてこられたんですか

長嶺 わかりません

川上 そうですか

長嶺 はい

川上 私は留まります

長嶺

川上 さっき二つのパターンがあるって言ってましたよね。長嶺さんは今、その二つの間で揺れています。仕事をこなす自分と、矛盾を感じて苦しむ自分と。それ、大切だと思うんです。立場は違うんですけど。同じです。私も。私もいつも揺れています

長嶺 あなたとは違います

川上 何が違うんですか

長嶺 私はあなたのように、思想があるわけではありませんから

川上 思想ってなんなんですか

長嶺 自分の感覚を、信じて、疑って、その繰り返しを続けていく覚悟のことです

川上

長嶺 もう二年になりますね

川上 え

長嶺 二年前、最後に、あなたが僕に言った言葉、覚えてますか？

川上

長嶺 生き方が違う人と生活を共にすることはできない

川上 . . . 覚えてる

長嶺 今になって、僕もそう思っています。僕は逃げますから

川上

長嶺 少し休んで、僕は僕の路を探します

川上

長嶺 あなたは、あの子たちの「世界」になってください

川上 なんですかそれ

長嶺

川上 無理ですよ。なんですか「世界」って、そんなことは無理ですよ

長嶺 留まるあなたを . . 僕は尊敬します

川上

長嶺 お元気で。体を、大切にしてください

長嶺、去ろうとする。

川上 長嶺さん
長嶺 はい
川上 あなたも
長嶺 ・ ・ ・
川上 あなたも ・ ・ お元気で

長嶺、去る。

川上はひとりになる。

絵本を手取る。ページをめくる。

川上 「まもなくあおむしは、さなぎになってなんにもねむりました」

川上、黙する。

川上 「それからさなぎのかわをぬいででてくるのです」

川上、自分の指先をじっと見つめる。指先に血がにじんでいる。

川上は泣いているのかもしれない。

再び、絵本を見て。

川上 「あつ！ちようちよ あおむしが、きれいなちように ・ ・ ・」

田丸が帰ってくる。

田丸 起きてました、ノンちゃん

川上 そうなの

田丸 話しかけました

川上 そう

田丸 お別れしてきました

川上 御苦労さま

田丸 ノンちゃん、笑ってました

川上 嬉しいのよ

田丸 え

川上 文水ちゃんに会えて

田丸 あの、ノンちゃんが笑ってるのに、私の方が泣いてしまつて

川上 うん

田丸 私、もともと、人と関わるのが苦手で、人がどう思ってるのかわからなくて、なんて声をかけていいのかわからなくて、ノンちゃんにも、ノンちゃんの前で何をしていいのかわからなくて、でも、一緒にいたくて、その気持ちは本当で、でも、アメリカに行くことは決めてて、それは、今の自分じゃだめだから、今の自分じゃ太刀打ちできない

から。でも、また川上先生と一緒に仕事をしたくて、でも、あれ、わかりません。わからないんですけど、自分が、あの

川上 文水ちゃん

田丸 はい

川上 それ、「真つ当」だから

田丸 「真つ当」って、なんですか

川上 ちゃんと向き合ってる

田丸 え

川上 誤魔化してないから、だから、ヒトは揺れるんだと思う

田丸 ……

川上 それが、「真つ当」な姿勢なんだと思う

田丸 姿勢？

川上 私も苦しいから

田丸 え

川上 いろんなことが抱えきれない。自分は役に立たない。自分にはなにもない

田丸 はい

川上 でもね、揺れながら、苦しみながら、自分が不完全のまま、声をかけていいんじゃないかと思う

田丸 はい

川上 一緒に、痛むことが、子供達に寄り添うことだと思う

田丸 はい

川上 それが「教育」の始まりだから

田丸 始まり

川上 私はここにいるからね

川上

川上、ぬいぐるみに手を入れて、動かしてみる。

田丸 はいっ

この物語はとある支援学校の日常風景を写し取ったものである。
教室には柔らかな日差し。

〈引用・参考文献〉

・「はらぺこあおむし」エリック・カール 森比左志（偕成社）

終わり